

「やさしい運転」に向けて

ソニー損保の提案する急加速・急ブレーキの少ない「やさしい運転」は、事故率の低減のほか、地球環境への負荷軽減や燃費改善にも役立つ「エコドライブ」との共通点があります。

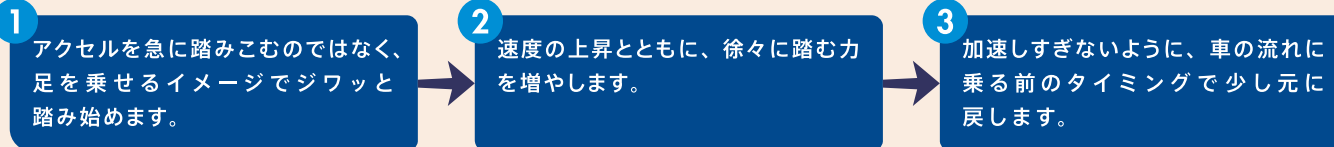
「やさしい運転」に向けた「エコドライブ」のポイントをご紹介しますので、ぜひ実践してみてください。

出典：一般財団法人省エネルギーセンター「LET'S スマートドライブ」

ふんわりとアクセルを踏もう。

発進するときは、おだやかにアクセルを踏んで発進しましょう。（「最初の5秒で時速20km程度」が目安です）

通常より少しおだやかに発進するだけで、燃料消費量は10%程度少なくなります。



車間距離に余裕を持って、加減速の少ない運転をしよう。

速度変動の少ない運転をするためには、まず適切な車間距離をとることが大切です。

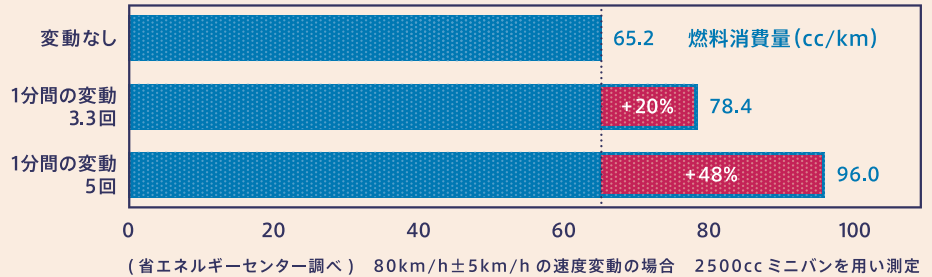
車間距離が短いと、周囲の交通状況等の変化に余裕をもって対応することができず、急加速や急ブレーキが増えてしまいます。

運転中は、速度変動を抑制することを意識します。前の車に連なって走ると速度変動が大きくなるので、適度な車間距離をとりアクセル操作で速度調整することで、速度変動の少ない運転が可能になります。

速度変動による燃料消費量への影響

速度変動の少ない運転は、燃費改善につながります。

たとえば、「1分間の速度変動5回」で走行した場合と、「速度変動なし」で走った場合とを比べると、48%もの燃料消費量の差がでます。



早めにアクセルオフしよう。

走行中の車は、アクセルを離してもしばらくは惰性で進むので、少ない燃料で走行することになります。周囲の交通状況等を見て、前方で曲がったり停止したりする必要のあることが分かったら、早めにアクセルから足を離してエンブレムで減速しましょう。

できるだけ惰性で進んだ後に、ブレーキで停止位置を調整することで、なめらかな停止ができるようになります。

早めのアクセルオフを心がけると2.1%程度燃料消費量が少なくなります。

アイドリングストップも心がけよう。

地球環境への負荷軽減を考えて、駐停車や信号待ちなど車が止まっている時には、エンジンを止めるようにしましょう。

エンジンを始動する時に必要な燃料は、アイドリング5秒分に相当します。車を5秒以上停止する場合は、エンジンを止めると燃料消費量の削減につながります。

ソニー損保の自動車保険

やさしい運転
キャッシュバック型

【専用サイト】 <http://www.sonysonpo.co.jp/auto/cashback/>

ソニー損保 やさしい運転キャッシュバック型

検索

（レポートに関するお問合せ先）ソニー損保カスタマーセンター / 受付時間：9:00～22:00

0120-808-278

携帯OK



PHS OK



おかけ間違いのないよう
番号をお確かめください。